



新春インタビュー

◆新年の挨拶

与儀：明けましておめでとうございます。2021年の新春インタビューと題し、沖縄県社会保険協会の金城会長に今年もお話を伺ってまいります。インタビューはわたくしキャリアコンサルタントの与儀が務めてまいります。金城会長、明けましておめでとうございます。

金城：明けましておめでとうございます。

1975年1月に設立された当協会も今年で47年目を迎えました。これもひとえに協会員および関係機関の皆様からのお力添えのお陰です。深く感謝申し上げます。今年も皆様にとって、素晴らしい年になりますようお祈り致します。

◆2020年を振り返って

与儀：本日インタビューにあたり、昨年新春インタビューを拝見しました。令和という新しい年号に新時代の幕開けを感じ、来たる東京オリンピックへの期待に満ち溢れた内容でした。それが、年初から猛威を振った新型コロナウイルスにより、世の中が様変わりしたように感じました。金城会長は、2020年を振り返ってみて、いかがでしたでしょうか？

金城：おっしゃる通りですね。昨年新春インタビューを見るとよくわかります。新型コロナウイルスの感染拡大により世界は一変しました。コロナ禍により従来の社会活動が制限されたことで、

頭を抱えておられる経営者の方も多くいらっしゃるかと思います。そんな中、「働き方改革」「同一労働同一賃金」「女性の活躍推進」など法改正等への対応を求められている会員の皆様のためにも、協会としてどのようなお手伝いができるかを考えています。

与儀：腕の見せ所ですね！個人的には去る6月に施行されたパワハラ防止法への対応も喫緊の課題かと考えています。

金城：そうですね。ところで与儀さんはセレンディピティ (serendipity) という言葉をご存知ですか？

与儀：いえ。どっという意味でしょうか？

金城：平たく言うと、失敗からヒントを得て問題を解決する能力です。スリーエム社のポストイット



■金城棟啓氏 1954年生まれ
1977年4月 琉球銀行入行
2012年4月 頭取就任
2017年4月 会長就任 (現職)
2013年3月 沖縄県社会保険協会
会長就任
他数多くの団体役員兼任

一般財団法人 沖縄県社会保険協会
会長 金城棟啓

トやコカ・コーラ社のコカ・コーラ誕生秘話などが事例として有名です。ポストイットもコカ・コーラも、作るうとして作られたものではなく、失敗から生まれたものです。「この失敗作は何かに使えないだろうか」と失敗からヒントを探し出した結果、世界的な成功を収めたのです。失敗を許容して、そこから学んだ文化。失敗を前提に学ぶ文化の中にこそイノベーションが生まれやすいです。

与儀：会長のお話を聞いて、ステイブ・ジヨブズ氏のスタンフォード大学での卒業スピーチを思い出しました。「先を見通して点を繋ぐことはできない。振り返って繋ぐことしかできない。だから、将来何らかの形で点が繋がると信じなければならぬ。」彼の言う「点」を失敗も含めた過去の出来事とするなら、その出来事が問題解決のヒントとなる時がきつと来る。そう考えると不思議と前向きな気持ちになります。失敗を恐れている場合ではないな、と。

金城：その通りですね。失敗を恐れるのではなく、その失敗を成功に導く「問題」を探すセンスこそ、これからの時代に必要な能力かと思えます。そういう意味で、今回のコロナ禍は、決してネガティブな側面だけではないと思うのです。Google Earthで地球を見ると、そこに国境はありませんね。地球は一つ。その上に数多くの国が存在しています。新型コロナウイルスは、国と国とが協力し合わなければ絶対に沈静化できません。一つの国で押さえ込んだとしても外から入ってきます。だからといって諸外国との繋がりを絶つということ



左から金城棟啓会長、与儀久美子氏、米弘明常務理事

はグローバルな世の中では存続できません。国もそうですが、私たち一人一人がユイマールの世界を目指さないといけません。過去から現在、そして未来を見据え、地球規模で物事を俯瞰して見ていくと、今我々が何をすべきかが見えて来るのではないのでしょうか。そういう意味で、新型コロナウィルスがもたらした世界規模での災禍は、人類に大きな教訓をもたらしたと言えます。

◆2021年の展望

与儀：それでは2021年の展望をお聞かせください。

金城：私は「世の中は想定外が続くもの」と、常に心のどこかで思っています。地震などがそうですね。10年後なのか、100年後なのか、1000年後なのかかわからない。けれどもいつかは必ず、来る。疫病もそう。天災とはそういうものです。そこを人類の経験でもって立ち向かう。会社の中でも言えます。様々な場面で想定外の出

来事が起こることを前提に最悪のケースに備え準備をし、楽観的に行動することを大切にしています。コロナ禍は、都市開発のあり方や人の動線、ダイバーシティなど、人々の生き方に急速な



変化をもたらしています。そのことについて個人的には、決して悪いことばかりではないと考えています。コロナ禍は人類に与えられた大きな気づきの場だと捉えています。これにより人類はもっと良い方向へ向かい、発展していくと思います。

与儀：私もそう感じました。コロナ禍に伴いNOO3が普及したおかげで県外の質の高い研修やセミナー、資格取得などを自宅で家事育児をしながら挑戦することができました。私が主催する研修やコンサルティング、打合せも全てZoomを併用することで以前よりも効率が上がりました。

金城：ある種のパラダイムシフトですね。コロナ禍は、当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などに劇的な変化をもたらす可能性を秘めています。その変化に気づき、新しい価値観を受け入れる姿勢が肝要かと思えます。



■与儀 久美子氏

宜野湾市出身 1980年生まれ
よぎキャリアコンサルティング代表
国家資格キャリアコンサルタント
アンガーマネジメント叱り方トレーナー™
2005年 (株)琉球銀行入行
2018年 退職・起業
当協会にてハラスメント防止研修等を務める

協会の今年の事業でも、Zoomを活用したセミナーや健康づくり事業など、コロナ禍だからこそできる内容で、協会員の皆様にとって有益な機会を提供していきたいと考えています。

◆おわりに おすすめの本

与儀：まさにNOCA（不安定で、不確定で、複雑で、不明瞭）な時代ですね。そういう時代に挑む協会員の皆様に、新春インタビューの恒例となっております、オススメの本はありますか？

金城：今年『NO RULES』という本をおすすめします。自らの業界が変化すると経営が傾く企業が多い中で、わずか15年間で4度もの大変化があった業界で上手く対応した企業があります。Zentis社です。同社の成功の秘訣は、その独自の企業文化「NO RULES（何でもあり）」にありました。この本は、コロナ禍における急速な変化（パラダイムシフト）を乗り切る私たちへのヒントだと、私は考えます。

与儀：変化や失敗を恐れるのではなく好機として捉え、行動に移す。そんな勇気をいただけたインタビューでした。金城会長、本日は誠にありがとうございました。